

“ねまき”と色彩嗜好——在宅ねたきり老人の生活実態(その3)——
 和洋女子短大　〇我妻美奈子　桐丘短大　伊藤秀三郎　立正大文
 三友雅夫

目的 本研究は、在宅の要介護(ねたきり)老人の“ねまき”の着用実態と色に対する嗜好を明らかにすることを目的とした。一般に、日常的に、心地よさ、快適さなどの衣生活に影響を与えるファクターには、布地の種類、肌ざわり、保温性、通気性、着脱しやすさなどに限られず、色や柄も又そのファクターの一つと思考する。殊にねたきりの老人のねまきは、療養生活、その生活志向、生きる意欲に影響すると思ふ。そこで、本報告では、“ねまき”の着用実態と色に対する嗜好に焦点を絞り分析することとした。

方法 データ収集、統計処理については、前回報告(その1, 2)に指摘したとおりである。データ収集は質問紙法、面接調査法によった。調査は、昭和61年4月～5月の三週間にわたり実施した。回収票は475票であった。統計処理は、コンピューター(FACOM ANALYST VIO/L 20A)によった。集計票は398票であった。統計処理は、二次クロス集計の方法をとった。

結果 調査項目83の全項目にわたる単純集計データの分析結果は、「在宅ねたきり老人の生活実態」のテーマによる報告(日本家政学会 東北・北海道支部 第32回 総合研究発表会 講演要旨およびその研究発表時に配布した資料(タイプ印刷))に示した。

本報告では、1)ねまきの型(洋風・和風、長着・二部式、パジャマ・ネグリジェ・着物)についての分析、2)色の嗜好(好きな色、嫌いな色)についての分析、3)ねまきについての感想(意見)の分析、この3項目について発表する。分析結果については、研究発表時に、二次のクロスデータの統計事実を示し発表したい。